

自閉症・強度行動障がい支援について考えたこと（自由記述）

① 幼児期・学齢期

- ・ 幼児期の子たちと関わっているが、10年20年30年先を見すえて、もっと寄り添っていくことで何か新しい支援も見つかるのかなと感じた。
- ・ 幼児期、学齢期にどれだけそのお子さまに対して支援をしていくか考えて行かなければいけないことを再度考えさせられた。
- ・ 学齢期の支援において、支援者が変わるからこそ「1人でできる」が重要であり、その力を身に付けられるよう、支援していかななくてはならないと気付くことができました。

② 強度行動障がい

- ・ 強度行動障がいについてほとんど無知な状態でしたが、今回の研修を受けて少しだけ理解できました。まだまだ未熟で分からないことも多いので、今後、さらに深

- め、障がいに向き合えるようになりたいと思います。
- ・ 在宅の強度行動障がいの人の支援が不十分。本人、家族の悲鳴。対応できる事業所が限られる。それは人材不足も理由のひとつとしてあるだろう。それと専門性の問題も。
 - ・ 自閉症、強度行動障がいに関わらず、知的障がい、親、支援者同士様々な関係性にもつながる支援だと改めて感じました。また、支援者がチームで同じ方向を見て取り組むことの重要性を強く感じました。

③ 余暇

- ・ 現在、自閉症・情緒障害の中学生を担当しており、次のステージ（進路）。将来を意識して関わっておりますが、余暇の必要性、大切さをこの研修会で初めて知ることができました。
- ・ 現在、自閉症のお子さんを保育しているのですが、日々何を提供したら喜ぶか考えています。本日の先生方のお話を聞いて、やはり、好きなことや余暇の大切さを、改めて感じました。
- ・ 幼児期、学齢期からの支援が大切だと改めて学ぶことができました。何も無い時間に行動に出てしまうということでご本人にあった余暇支援の重要性もわかりました。

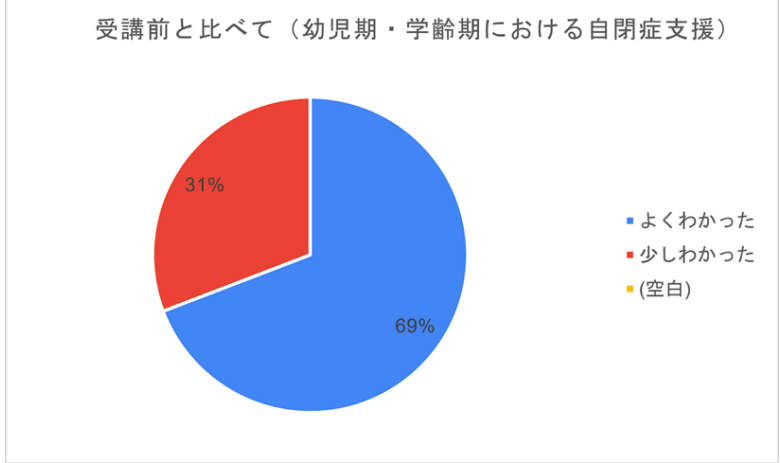
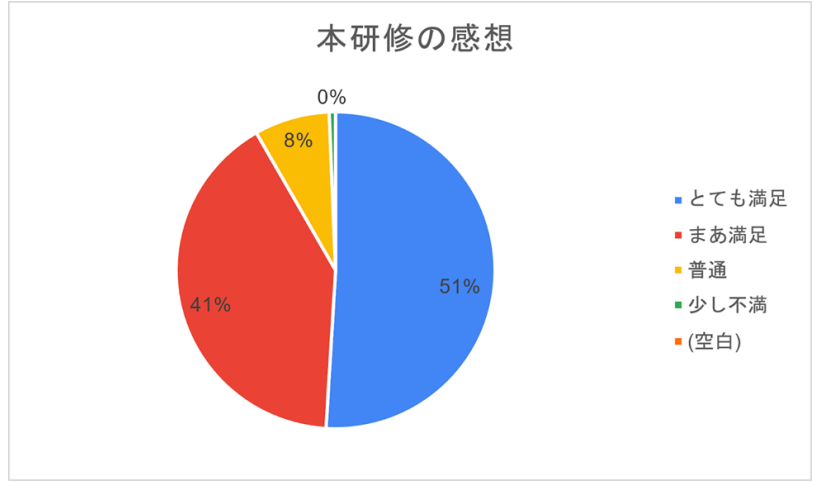
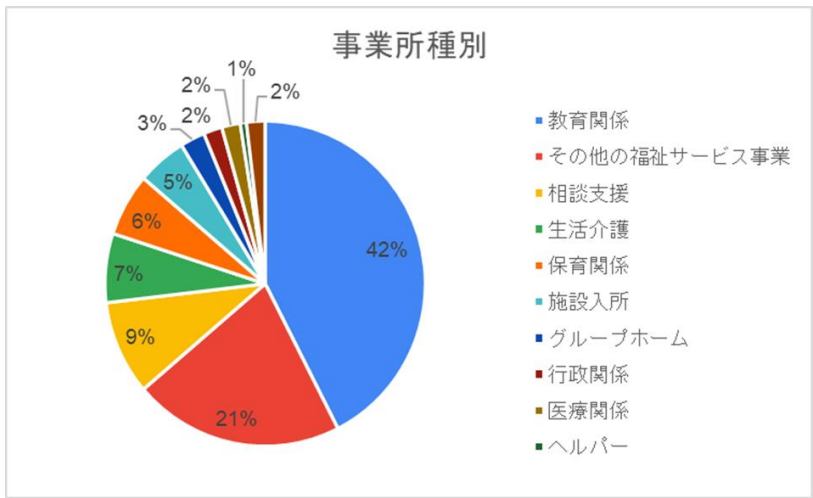
今後の研修の希望

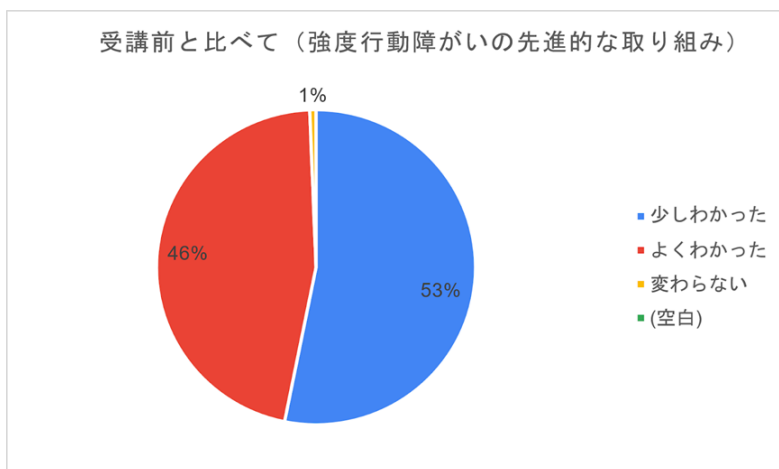
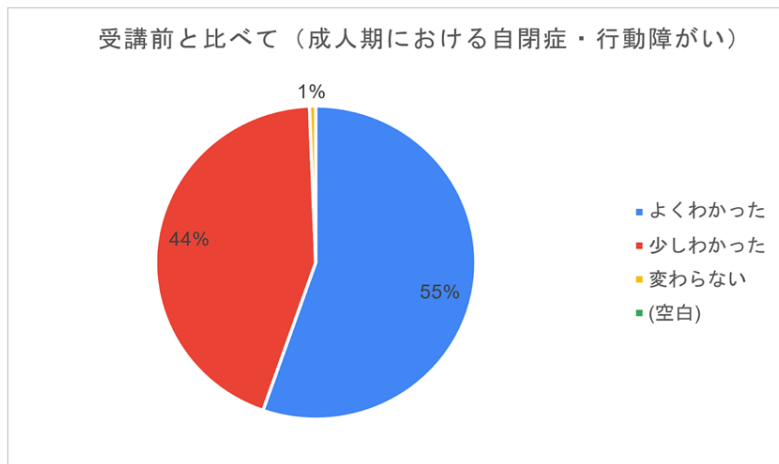
- ・ 学齢期前、幼児期の支援についてもっとくわしく知りたいです。
- ・ 教育でできることがあれば、自立支援のために色々と学びたいと思います。学齢期の適切な支援方法などを知りたいです。
- ・ 保育士をしており、自閉症支援について知りたく今回受けましたが、幼児期にできること等少なく残念でした。今回の内容であれば成人期などと範囲を絞ってもよかったのでは。もう少し、幼児に限定したお話を聞きたかったです。

その他の感想等

- ・ 幼児期から成人期へ向けての支援について、とても分かりやすい研修内容でした。好きなこと、夢中になること→余暇、ひまつぶしを見つけることがうまくできていなかったのも、アセスメントの方法も参考になりました。札幌の課題は子ども達もすでに実感しています。本当に受け入れ先がない……やめさせられてしまう……大きな課題で解決できずにいます。このような事業は大切だと思います。
- ・ 自閉症と強度行動障がいのつながりについて始めて知りました。保育園につとめていて、自閉症・知的障がいの子どもがいるので、人生の基盤となる幼児期も大切に保育していきたいと思いました。研修を行っていただきありがとうございました。
- ・ 日々支援している中で、ご利用者の余暇支援に対して、なかなか増やすことが出来ていないのが現状です。しかし、余暇がやっぱり大切だと分かり、今後の支援で余暇の提供を増やせるようにしたいと思いました。本日はありがとうございました。

動画視聴 578 名 (1456 視聴) アンケート回収率 28%





自閉症・強度行動障がい支援について考えたこと（自由記述）

① 幼児期・学齢期

- 幼児での支援を将来にどう繋げていくかを考えて方向性を決めていきたいと感じた。
- 行動上の問題を抱えやすい年代の支援には、学齢期の支援が大切だということを知り、自分の行動一つとっても、その後の行動に関わってくるのだと学びました。
- 学齢期においても、アセスメントを大事にしながら、本人の意思を大事にして関わっていくことの大切さを感じました。また、10年、20年先の姿を考えながら、関わっていくことも改めて重要であることを考えさせられました。

② 自閉症・強度行動障がい

- 相談を受ける中で、重度の知的障がい・自閉症の方を受け入れてくださる施設の少なさを実感しています。自分たちが活動している地域の入所施設はかなりの方が待機している状況で、その方々の「今」の支援をどう組み立てられるのか、日々悩みながら調整しています。
- 研修の中で何度もお話があったように、日々強度行動障害の方々と関わっていると

目の前の行動に対する対応で一杯いっぱいになってしまいましたが、利用者支援の楽しさはその方の人生の充実に関われることで、それを目標として共有できるチームが大切と思いました。

- 自閉症支援の基本をおさえるとともに、チームとして組織的で一貫した支援を行っていくことの大切さをあらためて考えることができました。

③ 余暇

- 余暇支援の大切さについて、改めて考えさせていただきました。なかなか定着せず何度か行っただけになることも多く、今やっていることは意味があるのかと感じることもありました。しかし今ではなくその先の人生まで考え、次にバトンを渡す気持ちで続けることも大切だと思えました。
- 余暇が大切ということを改めて考えさせられた。問題行動といったことの軽減にとられると「その人らしい生き方」が後回しにされてしまう。本人主体で考えることの大切さについて再確認させていただいた。
- 行動そのものに焦点を当てがちでしたが、行動を軽減したその先の余暇支援がどれだけ大事なものかわかりました。そのためには、幼少期の余暇アセスメントを怠らないようにしたいと思いました。

今後の研修の希望

- 在宅で生活されている自閉症の方の支援について、事例報告等お聞きしたいです。特に、ご家庭で「構造化」を行っているケースがあれば、お願いしたいです。
- 講習の一部に今回のように「楽しい支援の取り組み方を考える」の例をもっと取り上げて欲しいと思いました。
- 今回のようにオンラインを継続してお願いいたします。研修の内容としては、第二回は座談会（意見交換会）の内容があると、色々な職種や立場の方のご意見を一気に聞けるのでぜひご検討お願いいたします。

その他の感想等

- 一つ一つの講演の時間が長なくて、聴講しやすかったです。
- 全体的に音声聞き取りにくかったのが少し残念でした。日々支援している中で、ご利用者の余暇支援に対して、なかなか増やすことが出来ていないのが現状です。しかし、余暇がやっぱり大切だと分かり、今後の支援で余暇の提供を増やせるようにしたいと思いました。本日はありがとうございました。
- 今まで、支援が必要な子の卒園後の先の姿が、学童期までしか分からなかったが、成人期や、高齢期までのことを知る事ができ、大変勉強になりました。